

レインボーバスのあり方検討分科会の 進捗状況について

レインボーバスの課題について

- ① 南海バス、近鉄バスの路線バスのルートと輻輳
- ② 路線バス運賃と比較すると半額以下の設定
- ③ 新型コロナウイルス感染症の影響により、さらに公共交通全体の利用者が激減
- ④ 収支率（運行経費－運賃収入）が25%以下
- ⑤ 巡回されていない公共施設も存在
- ⑥ 全ての市民が利用できる運行ルートになっていない

さらに

近畿運輸局との「地域連携サポートプラン」協定に基づく「提案書」において、「**レインボーバスについて、既存路線バスと重複するルートの見直しや、路線バスと重複する区間は運賃の統一化を図る等、既存路線バスに影響を与えないよう見直しを検討する。**」とあることから、これらの解決に向けた検討は、早急に行うべきと考える。

第1回 分科会の結果報告

• 委員からの主な意見

	委員からの主な意見
路線バスとの輻輳	<ul style="list-style-type: none">• 路線バスが運行されているので、レインボーバスが廃止となってもバス移動に困ることはない。• 金剛・金剛東地区は路線バスのほか、病院の送迎バスもある。
交通不便地域への対応	<ul style="list-style-type: none">• レインボーバスの運行に必要な経費（補助金）で、交通不便地域への運行に捻出する方が市民の恩恵を受けやすい。• レインボーバスが運行しない地域の住民にとって、現在のレインボーバス沿線に行く目的がない。• 高齢化の進行から、坂道の多い地域や小高い住宅地、道路幅の狭い地域にも進入できる小型の車両での運行の検討が必要。• タクシー補助も視野に入れた移動支援を望む。
公共施設へのアクセス	<ul style="list-style-type: none">• 路線バスでも行ける公共施設があるので、公共施設へのアクセスという役割を見直してもいいのでは。• 金剛地区の住民にとって金剛連絡所があるので、わざわざレインボーバスに乗りして市役所方面に行く用事がない。
路線バス運賃	<ul style="list-style-type: none">• 運賃格差の影響で、路線バス利用者がある程度レインボーバスに流れている可能性は否定できない。• 乗り継いだら運賃が加算されるので、それを軽減できたらありがたい。
バス事業運営	<ul style="list-style-type: none">• コロナ禍で利用者が激減したので、このままだと減便や廃止は避けられない。• 維持につなげるよう、日ごろから路線バスに乗ることを心がけたい。• 現行のレインボーバスを運営するには、運賃を350円程度にしないと賄えない。

レインボーバスのあり方検討分科会の進捗状況について

・分科会の今後の進め方について

スケジュール及び進め方については予定ですので、変更される場合があります。

令和3年12月

令和4年4月頃

令和4年6月頃

第1回

第2回

第3回

現在の位置

今後のスケジュール（予定）

第2回：令和4年 4月ごろ ワークショップ

第3回：令和4年 6月ごろ 方向性の検討

第4回：令和4年 夏ごろ ルート案の選定

第5回以降：令和4年度中 利用促進策の検討